

第13回死刑映画週間

喪失と悲しみ、そして赦すこと

映画 (監督 制作年) × 語る人 (一回限り、裏面参照)



© 2020 7 ECCLES STREET LLC

『対峙』

(フラン・克蘭ツ 2021) × 片山徒有



© 2022 「ある男」 制作委員会

『ある男』

(石川慶 2022) × 井上淳一



© Aloms & Void

『キエフ裁判』

(セルゲイ・ロズニツァ 2022) × 池田嘉郎

『私、オルガ・ヘプナロヴァー』

(トマーシュ・ヴァインレプ&パトル・カズダ 2016) × 栗林佐知

©2016 BLACK BALANCE, MEDIA BRIGADE, ALEF FILM&MEDIA, LOVEFRAME, FRAME 100R, ODBA-FILM, SPOON, BARRANDOV STUDIOS, ARIZONA PRODUCTIONS.

「それでも死刑は必要?」と問う。
親しき人を亡くせば、人は深い悲しみを抱く、
まして殺されれば、喪失感はどれほどか?。
パレスチナ・ウクライナ、戦争で人が殺され、
アメリカ、銃乱射で人が殺される。
日本、死刑になりたい殺人で人が殺され、
人を殺していない袴田巖さんはいまだに冤罪死刑囚。
喪失と悲しみ、赦すことを描く上映7作品は、



© 日活

『青春を返せ』

(井田深 1963) × 太田昌国



© Kimoon Film

『袴田巖 夢の間の世の中』

(金聖雄 2016) × 新田涉世



© December Production Committee

『赦し』

(アンジュル・チョウハン 2022) × 牧田史



2024年2月10日(土)~2月16日(金)

渋谷 ユーロスペース
東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS 3F